




[ホーム](#)
[PCWEB](#)
[デジタルホーム/モバイル](#)
[記事検索](#)
[メールマガジン](#)
[ログイン](#)



**快適な”ながら”作業が
デジタルライフをより有意義にする！**

[トップ](#) > [デジタルホーム/モバイル](#) > [レポート](#)

【レポート】

独創的なインタフェースのアイデアが光る「インタラクション2004」

(3) 写真の活用や新しいウィンドウシステムの挑戦

2004/3/15 美崎薫

- ❖ ソニーの法人向け光&DSL接続は全てに固定IP付！初期費用も割引中！
- ❖ 【もれなくもらえる！】IT派遣登録でUSBメモリ等プレゼント

コミュニケーションを促進する六の膳

対話発表はまだまだ続く。

携帯電話やデジタルカメラによるぼう大な写真を前にして、その写真をどう扱うか、ということは重要なテーマとなりつつある。その写真をコミュニケーションのツールとして使おうというのが、北陸先端科学技術大学院大学の天野健太氏らによる「六の膳」である。

日本料理のもっとも丁寧な膳組は、本膳(中央に置き飯、汁など)・二の膳(右に置き汁、猪口など)・三の膳(左に置き汁、造りなど)・与の膳(右奥に置き焼き物。みやげ用)・五の膳(左奥に置き、組肴。みやげ用)の五つの膳からなる。※参考:伝統的工芸品産業振興協会Webサイト

「六の膳」とは、写真を提示する六番目の膳(皿)をここに用意して、食卓コミュニケーションを行おうというものである。卓上では、実際に皿に写真が提示されデモされた。

食卓はUSBカメラでスキャンされ、プロジェクターで写真を提示している。写真の提示位置はUSBカメラによって皿に追従する。皿を回すと写真を拡大/縮小でき、皿を裏返すと別の写真に切り替えられる。単純な仕掛けだが、写真をコミュニケーションに使おうという点でちょっと興味深い。

メールマガジン

登録・変更・停止
メールアドレス

購読規約





北陸先端科学技術大学院大学の天野健太氏



テーブルの上の皿に写真が映し出されている

ちらっと隠れたウィンドウを見る

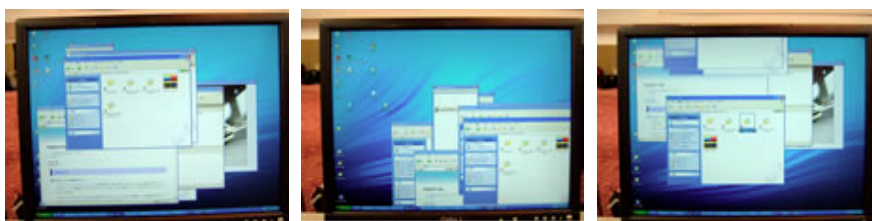
写真環境を作り出す「Photorium」で知られる慶應大学大学院安村通晃研究室の神原啓介氏が新たに発表したのが、隠れたウィンドウをのぞき見る「ちらりウィンドウ」である。

現在のウィンドウシステムは、ウィンドウをたくさん開くと重なってしまっていて見えにくい。これはそもそもディスプレイの解像度が低すぎるためと考えられる。根本的な解決方法は、ディスプレイの解像度を向上させることだが、たとえば20型で1600×1200ピクセル程度であっても、まだ小さいという話もある。デュアルディスプレイなども徐々に浸透しているようだが、本格的な普及はこれからである。最大の問題はディスプレイの解像度が、そうそう簡単には向上しないことにある。ディスプレイの解像度は、たとえばHDD容量の増加に較べればはるかに進化が遅い。



「ちらりウィンドウ」のコンセプト

そこで、この「ちらりウィンドウ」のような、隠れたウィンドウを見る方法が有効ということになる。フリーソフト「窓立て」や、Mac OS Xの「Expose」、東京農工大学の加藤直樹氏およびNTTデータの小國健氏による「ぱらぱらウィンドウ」など同様の研究は少なくないので、今後このジャンルは充実してきそうだ。

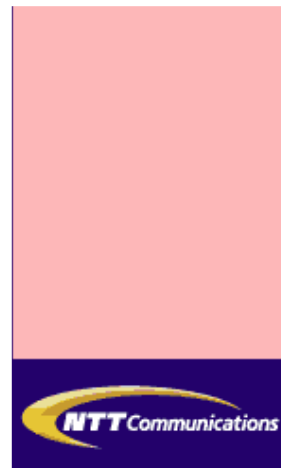


ちらりウィンドウで手前のウィンドウが動くと、奥のウィンドウを見ることができ

ちらりウィンドウは近々リリース予定だという。マウスのほかにジョイスティックを使うシステムであるため、ソフトウェアだけでは使えないが、試してみたいはいかがだろうか。

キッチンも変わる

実物展示こそなかったが、モノ系では、玉川大学の椎尾一郎氏らのグループによる「Kitchen of the Future」も迫力満点だった。コンピュータを組み込んだキッチンというのは1990年ごろからいくたびも提案されているが、「Kitchen of the Future」ではディスプレイを4台も組み込んでいところが現代的である。



トピックニュース

■ 人命救助用の大型ロボ公開 [3/25]

テムザックは、災害現場における人命救助を目的とした大型ロボット「T-52 援竜」を開発、東京都三鷹市の消防研究所にて公開した。身長3mを超える大型の油圧駆動方式のロボットで、腕を2本装備し、人間と同じように両腕を使った作業を行うことができる。さらに改良を加え、1年以内の商品化を目指す。

製品情報

■ iPod miniの国内発売が延期 [3/25]

■ ギガバイト、3面モニタ対応BIOSを公開 [3/25]

ピックアップ

■ マイクロソフトSFU vs Cygwin - Windows上のUNIX互換環境を徹底比較

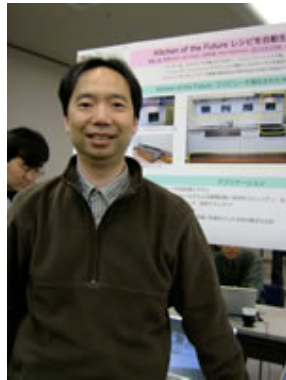
■ Prescottの実力を検証する ～ついにペーブルを脱いだ新世代 Pentium 4

■ 【特別企画】PCの転ばぬ先のバックアップツール! クリック数回でHDDをそのままコピーできる「HD革命 CopyDrive」新登場!

■ 【特別企画】簡単・便利でお得! BTOでカスタマイズもOK! PC製品買うならWEBで即購入しよう

■ 【特別企画】PCで困る前に、困ったときに役立つツールの決定版「PC万能メンテナンスシリーズ」

もちろんカメラも組み込まれていて、調理台の画像を音声メモといっしょにとりこんでレシピのWebページを作成しながら遠隔コミュニケーションなどということを行ってしまうのであった。4台のディスプレイは1台のLinuxマシンから出力されていて、XGA(1024×768)の4倍の面積を使えるというリッチさなのであった。



ドラえものの秘密道具の開発を目指す、という玉川大学の椎尾一郎氏



4台のディスプレイという物量で攻める「Kitchen of the Future」

先の「ちりりウィンドウ」でもわかるように、おそらく日常空間で本当にコンピュータを使おうとするときには、現在のディスプレイは小さすぎると考えられる。ふつう料理をするときには、雑誌の見開き料理レシピを広げながら使うだろう。ページをめくってあちこち見ていたら、料理は黒こげだ。つまり、料理をしながらウィンドウを切り替えるのは難しいわけで、そういう意味で「Kitchen of the Future」は、1990年代以来全盛を誇るウィンドウシステムが限界に来ているのだ、ということを示しているのだと受けとることもできる。

このようなキッチンが実際に使えるようになることを強く期待している。

◀ 戻る

前へ 1 2 3 4 5 6 次へ

目次

【レポート】 独創的なインターフェースのアイデアが光る「インタラクション2004」

- (1) 今年はさらに発表数が大幅増のヒューマンインタフェース会議
- (2) 対話発表のベスト賞はタイルによる音楽演奏システム
- (3) 写真の活用や新しいウィンドウシステムの挑戦
- (4) 身の回りの空間を自然に情報化する
- (5) テキスト情報を取り扱う新技術やフィードバックマウスも
- (6) 一般講演:「映像と記憶」セッション

情報提供をお待ちしています！ご意見・ご感想 | メールマガジンの申し込み(無料)



台数限定！お買得なアウトレットPC 114,800円～ SHARP PC ONLINE

お知らせ | お詫びと訂正 | ご意見・ご感想 | 情報提供 | プレスリリース窓口 | スタッフ募集 | ライター募集 | 広告について
MYCOM PC WEBについて | メールマガジン | サイトマップ | 利用規約 | プライバシー | 著作権とリンク | スタッフ | 出版物のご案内 | 会社案内

Copyright (C) 1997-2004 Mainichi Communications Inc. All rights reserved. 掲載記事の無断転載を禁じます